

地域支援機関と連携して

～相談支援事業所の立場から～

医療法人財団アカシア会

三郷市障がい福祉相談支援センター パティオ

発表者 山田 一三

海老沼 裕子



# 三郷市 障がい福祉 相談支援センター パティオ



平成18年10月の法施行により、埼玉県三郷市より委託を受けた指定相談支援事業所です。障がいのある方（身体・知的・精神、発達障がい、高次脳機能障がい、難病、その他）を対象に、本人や家族、支援者の方々の様々な相談に無料で応じています。

日常生活、就労等、様々な不安や困り事に専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、ピアスタッフ等）が応じ、各種福祉サービスの紹介や生活プランの作成、権利擁護など必要な援助、情報提供を行う総合的な相談窓口です。



## ●ステージごとの課題や支援

### ①児童 18歳まで

- ・不登校、進路
- ・親の障害の受容
- ・触法行為、性の問題、その他問題行動

### ②青年期 18歳～

- ・就労
- ・障がい受容
- ・対人関係（家族・職場・友人）
- ・自立
- ・ひきこもり

### ③成人期

- ・就労
- ・対人関係（家族・職場・友人）
- ・結婚、出産
- ・子育ての困難さ
- ・家事が出来ない
- ・金銭管理

### <支援>

- ・障害サービス：児童発達支援  
放課後等デイ  
短期入所
- ・お母さん支援（療育）
- ・診断、児童精神科通院
- ・手帳の取得 など
  
- ・障害サービス：ヘルパー  
グループホーム  
就労支援
- ・診断、精神科通院
- ・手帳の取得 など



## 最近のご家族（親御さん）からの相談

- 子供が学校に行かない。
- 最近、他害行為が増えてきて、多動だけじゃなく強度行動障がいもあるのかな・・・
- 近々親が入院する。障がいのある子どもを預けられるところはあるか？
- 吸引が必要で学校の送迎車には乗せてもらえない。親が学校に送っているが大変。通院の送迎も吸引しながら運転が大変。何か支援はないですか？
- 作業療法士がいる運動療法のできる場所で療育させたい。そのような場所はありますか？
- 経済的に苦しくて、放課後デイのおやつ代等を払うのが大変。行かせてあげたいけど・・・。etc



## ●事例 A家族



- 母子家庭
- 母親：30代：療育手帳B。他、不安障がい、うつがある。
- 元夫からのDVで、3回離婚している。
- 生活保護
- 精神科通院中



長女：8歳：広汎性発達障がい（手帳なし）

- 不登校



次女：7歳：知的障がい（療育手帳C）

- 不登校



## ●初回訪問時の状況

家の状況：ごみ屋敷の状態。足の踏み場なく、  
床下からゴミや薬が出てくる…



【母親】：うつで動けない。調理、入浴、片付けが出来ない。お金がない、お米も買えない…  
調子が悪いと、子供達を学校に押し出すことができない。



【子供たち】：不登校の状態、汚れた  
布団にくるまりで寝ていました



## ●支援を少しずつ導入



【母親】→支援者と一緒に行い、出来る事を増やす。

- 食事・買い物・掃除の支援：ヘルパー
- 服薬・体調管理：訪問看護：訪問看護
- 金銭管理：安心サポートネット（社会福祉協議会）



【子供達】

- 給食を食べるために学校に行くんだよ…ヘルパーや学校から、学校に行くように働きかけ。
- 入浴介助や移動（余暇）支援：ヘルパー
- 一緒に片付けや調理：ヘルパー
- 学校や児童精神科医との連携
- 服薬・体調管理：訪問看護



## ●変化

環境：定期的に掃除支援が入り、以前より改善。

### 【母親】

- ・金銭面：お金や食材がなくなることがなくなり⇒精神的に安定。
- ・体調：定期的な服薬と通院を継続し、以前よりは安定。



### 【子供達】

- ・学校に行けるようになった。
- ・栄養面・衛生面が改善。
- ・訪問看護の見守りで安定。



## ●約10年後・・・

- ・子供達は高校生になり、特別支援学校に楽しく通っている。
- ・母親の精神的な波は継続しているが、子供達が安定してきている。



## 【A家族 地域での関係機関との連携】

特別支援学級・特別支援学校

社会福祉協議会（安心サポートネット）

ヘルパー事業所（外出支援）

ヘルパー事業所（居宅）

子ども支援課

訪問看護

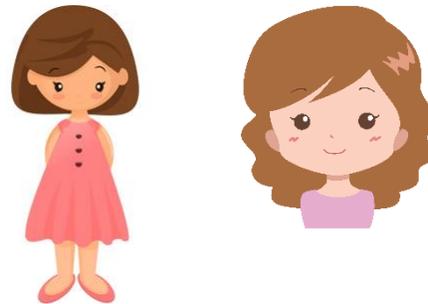
障がい福祉課

総合病院

児童精神科

障がい者相談支援事業所

精神科



## ●事例 B家族



- 母子家庭
- 母親：30代：統合失調症、他内科疾患
- ゴミ屋敷の状態。
- 生活保護
- 精神科通院中
- 人の好き嫌いが激しく、支援者拒否も強い。

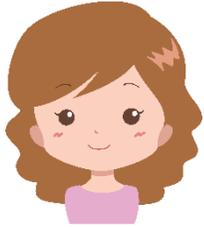


- 子供：14歳：広汎性発達障がい（療育手帳C）
- 中学を不登校。転校後も不登校。
  - ゲームの毎日。昼夜逆転。
  - 本人「学校に行きたくない。働きたい。」



## ●支援を少しずつ導入

### 母親



- ・掃除・食事作りの支援：ヘルパー
- ・訪問看護は？：人が家に来るの緊張する。嫌だ…

子供：14歳：広汎性発達障がい

- ・特別支援学校を見に行くだけいこう！
- ・学校を卒業したら、いろいろ働く道があるよ…



↓  
・学校見学、面談。進路コーディネーターの先生の本人への働きかけ

- ・特別支援学校（高等部）と中学校の先生方の連携
- ・療育センターや行政の、家族への働きかけ



## ●変化

### 母親

- ・環境面は少し改善。自分でも片付けるようになった。
- ・子供には学校に行ってほしいが、言うと怒るので言えない。今後就職もしてほしいが、外に出ていたずらされるのも怖いと思ってしまう



子供：16歳：広汎性発達障がい

- ・特別支援学校に休まず通学。部活にも参加。
- ・夜はゲームをやらないで寝ている。
- ・動けない母親に、時々暴言等あるが…



## ●一年後・・・

子供：17歳（高3）：広汎性発達障がい

- ・窃盗、性的な問題行動あり。
- ⇒その後不登校のになった。担任の先生やスクールソーシャルワーカーが電話や訪問で定期的にフォローをしている。進路の問題。



## ●関係機関との連携

- 学校（特別支援学級、特別支援学級）
- 行政：健康推進課 子ども支援課、発達支援センター、障がい福祉課、生活福祉課、児童相談所
- 地域包括支援センター
- 社会福祉協議会（安心サポートネット）
- 病院：療育センター、児童精神科、精神科病院、総合病院
- 福祉サービス：ヘルパー事業所、移動支援 短期入所  
児童発達支援 放課後等デイサービス
- 訪問看護
- 民生委員
- 警察



## ●専門の相談窓口

- 児童：発達障害総合支援センター
- 児・者：発達障害者支援センター



# 新たな取り組み 始めています…

といってももう4年目

地域での必要に応じて

精神科医とソーシャルワーカーのチームで地域へGO!!



# 精神科医の話

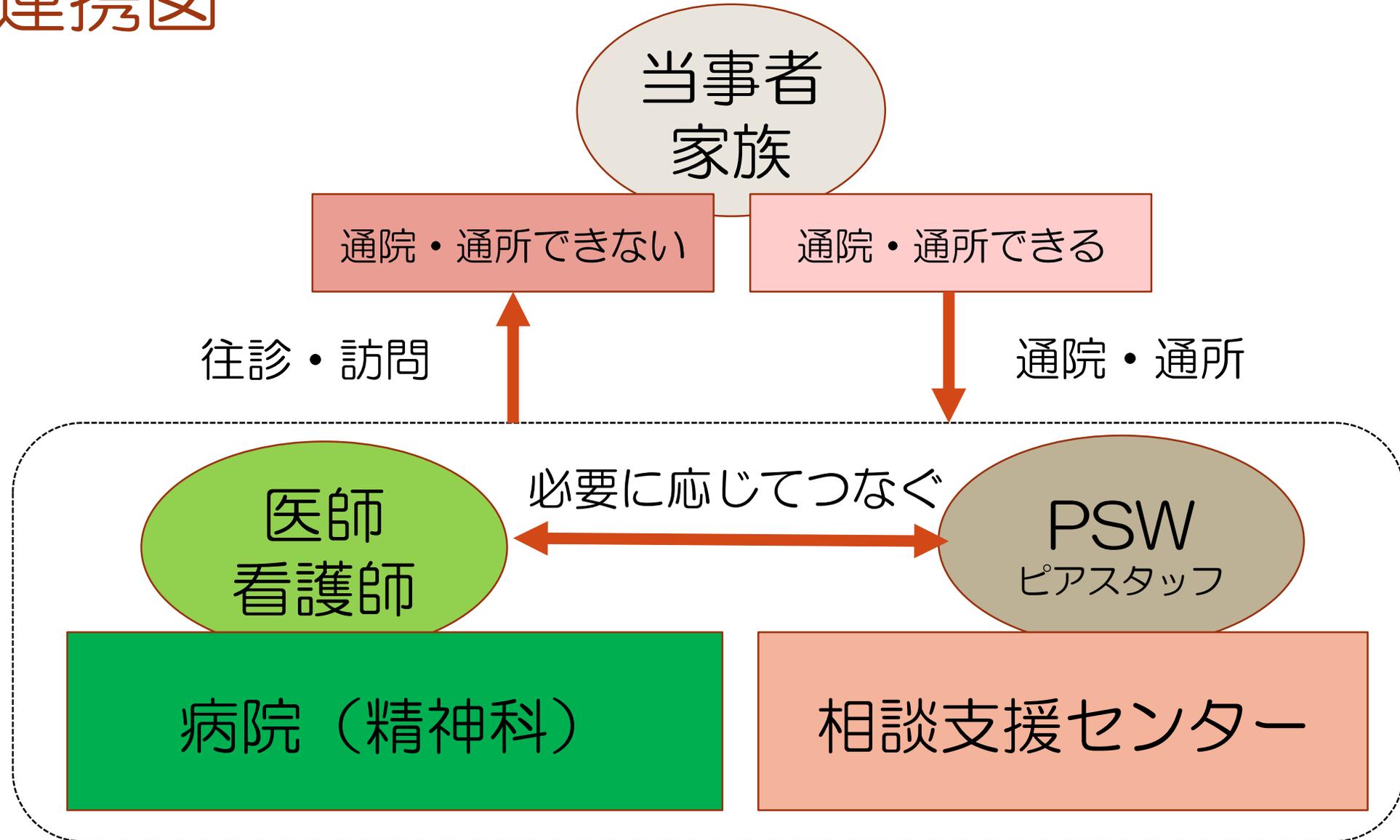
- 自分が行くことで、サービスに繋がったり、支援や受診に対するハードルが低くなるなら、もっと地域に出て行きたいが物理的に難しい。
- 地域に出ると、診察室ではみえない「生活」が見える。
- 精神科医がもっと地域に出て行ければ、精神医療は変わると思います。
- 悩みながら、でも切れないで繋がっていきこう！



- 『あなたの力を社会へ返していきましょう！』
- 『家族が笑顔にならないといかんね』
- 『あなたが楽になるにはどうしたらいいかね？』



# 連携図



# 訪問での一コマ



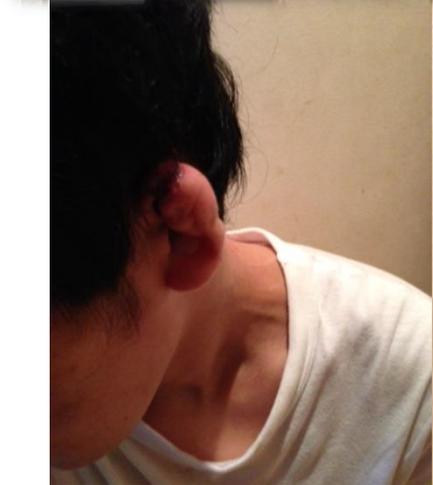
月曜の夕方なら  
空いてるよ～  
どこか困ってるとこ  
あれば行くよ！



メンタルクリニックみさと 所長 田口先生



# 強度行動障がい





訪問…  
生活環境から見えてくるもの



好きでこうなっている訳じゃない



# アルコール依存症



手がしびれるから、また飲む  
汚れた部屋を見て、また飲む  
どうでもいいやとなって、また飲んでしまう



## 様々な依存症

「バasherるとまずい」と思ったら…  
止めたいけど止められない…



「引きこもりと失声から  
自立を取り戻した40代A子さん」



# 概要

〈生育歴〉

母と二人暮らし。

幼少期は活発、検診で発達等の指摘はなし。

13歳；他市から転入。中学校時代「いじめ」に会い、登校することなく卒業。

15歳；「動物美容専門学校」に行くが、また「いじめ」に会い中退。  
この頃から「引きこもり」が始まり、「発話」ができなかった。

25歳；母親と精神科病院に行くが、一度きりで通院をやめる。母と筆談やうなずき等でコミュニケーションをとっていた。

30歳；自宅付近で、犬の散歩中に近所の人に不審がられ、全く外出できなくなってしまった。

この頃から「手洗い強迫」（1日20回・10分程度）の症状も出始めた。



A子さん39歳の頃

母親（70歳後半）は「地域包括支援センター」に介護保険の相談と同時に娘（A子さん）の事を相談しました。

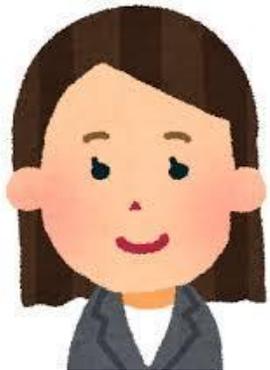


娘が20年ほど引きこもっているので、外に出られるようになって欲しい。私も足腰が弱って来ているので娘に買い物や手伝いをしてもらいたい。自分から相談しないので、これから話を聞いてくれる人がいたら良いなと思っている。



A子さんの困りごとは…

外には出たくないけど、  
「手洗い強迫」が辛いので治療をしたい。  
支援者の訪問や、面談は受けてもいい。



A子さん



40歳になり…

- **地域包括支援センター**より、  
A子さんの情報が「パティオ」に入る  
1週間後、母の包括支援者と同行し、自宅訪問  
(顔合わせ・相談内容の詳細聞き取り)
- 精神科Dr.と「往診」を始める(月1回)

往診を始め、医療とつながることで…

- 自立支援医療受給者証を申請
- 障がい者手帳 交付
- 障害年金の相談・申請

**「移動支援」**を利用

- 地域活動センターで「内職」を始める。

42歳頃には

- **就労継続支援B型**見学、契約  
週2日での通所を始める

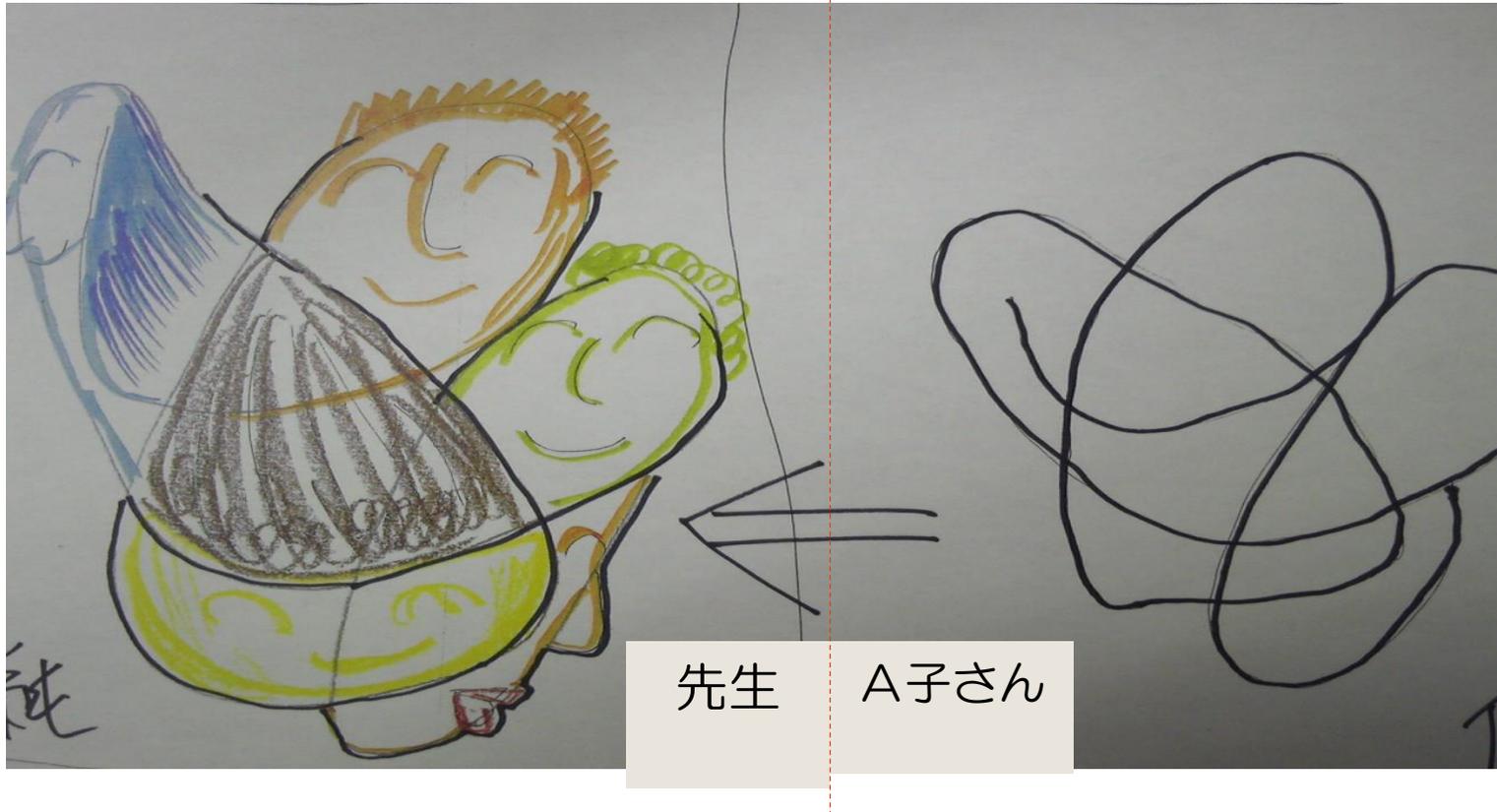


援助者が  
言葉がない中、  
本人とのコミュニケーションを、  
模索しました。



- 治療内容として

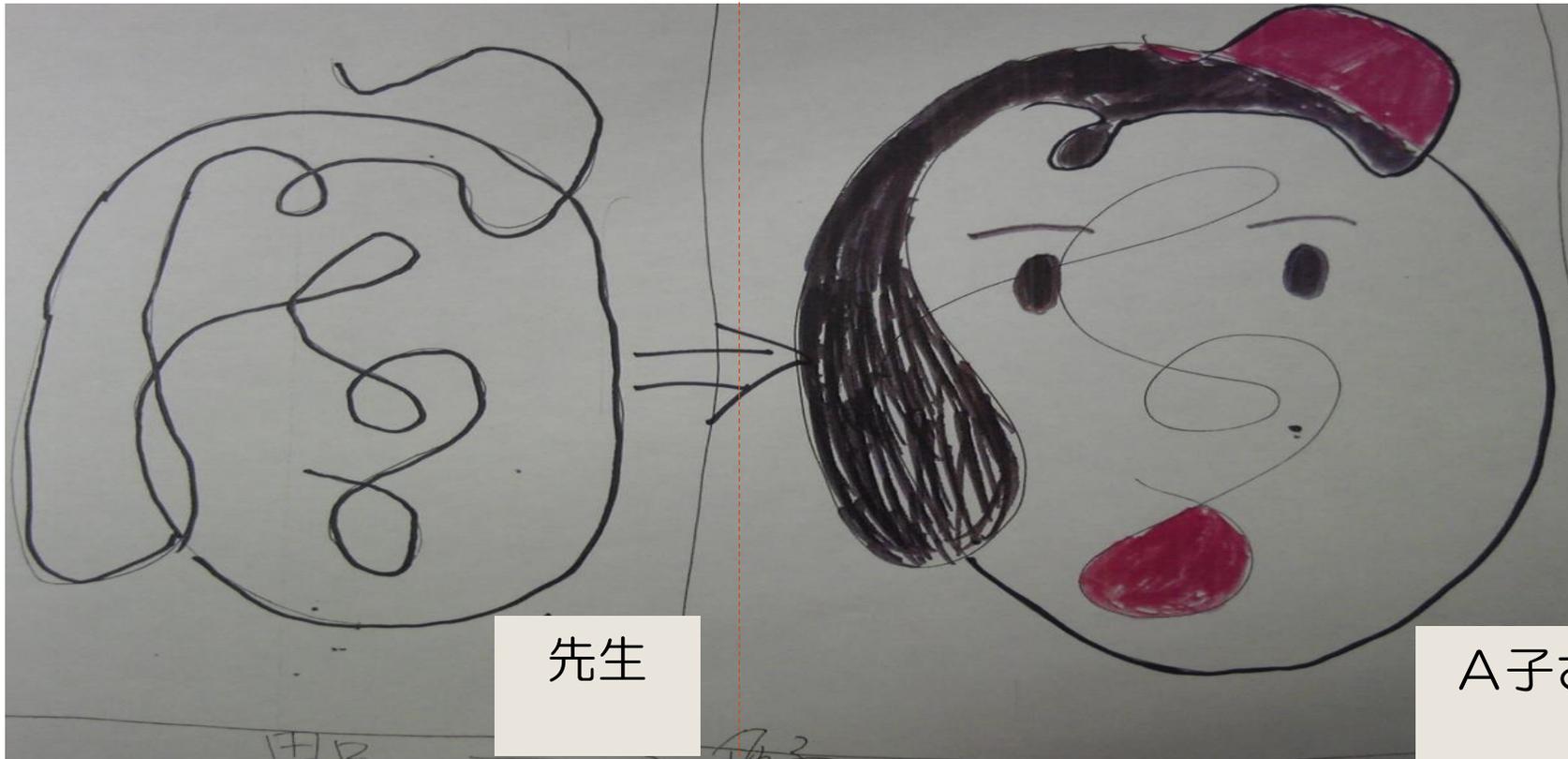
## 初めは治療者側からの絵付け



A子さんがフリーハンドで描いた線を先生が絵付け



# A子さんによる・線がきの色つけ



今度は逆に先生が線を描き、  
Aさんが絵付け



# 文章構成テストで気持ちを知りました

私の気持ち 大ともに子どもを愛情をもって育てていく。  
たくさんの方々に支えて頂いてお世話  
私の健康 になってここまで来たのでみなさんに感謝して  
なるべく3食、食事をする  
週に2~3回 ヨーグルトを食べる。  
私が残念なのは ひきこもってしまったので青春時代がなか  
事です。  
大部分の時間を ひきこもっている時 1日中 ぬてたり テレビ+  
テレビゲームをしていたので時間をむだにしてしま  
結婚 お互いを支え助けあっていく事。  
お互いの家族や親せきを大切にす。  
調子のよい時 買い物に行ける。夜までおきてくれる。  
どうしても私は 親ばなれをして成長したいです。  
家の人は 妹には私がひきこもりだったのが苦労を  
私が羨(うらや)ましいのは 女性が生きて働いている姿です。  
年をとった時、メイクやファッションにきよみのある人です。  
私が努力しているのは 健康でいたいです。親友がいたが幸せ  
私が忘れられないのは 朝6時前におきる事。夜11時前におきる事  
大好きだった母方の祖母に恩返しを  
しなかった事がこうかいです  
大好きだった愛犬を愛情と責任を  
もって育ててあげられなかった事と  
せっかく生まれてきたのにすばらしい  
一生にしてあげられなかった。こうかいです  
っも  
ございます。

A子さんの思いがびっしり！  
後悔や希望が入り混じっています。



# 希望に対する質問

- 親離れができるためにどんなことを知りたい？
- 友人ができたなら何をしたい？

2、親離れができるためには、どんなことを知りたいですか。  
どうしたら自立できるか。

3、親離れを実現するために、他の人からどんな応援をしてほしいですか。  
相談やむずかしい書類の書き方や人間関係など。

4、どんな仕事を一番してみたいですか。  
お店の品出し・品物をなすべし仕事

5、どんな仕事が一番自分に合っていると思いますか。  
むずかしくなく同じ事をくり返す仕事。

6、仕事に関して何を一番重視しますか。給料の額、仕事のやりやすさ、やりがい、人間関係  
人間関係  
仕事のやりやすさ

7、これまでどんなタイプの人と友人になりやすかったですか。  
やさしくおとなしい素直な人たち

8、友人ができたなら何をしたいですか。  
いっしょに買い物や食事をしたい。

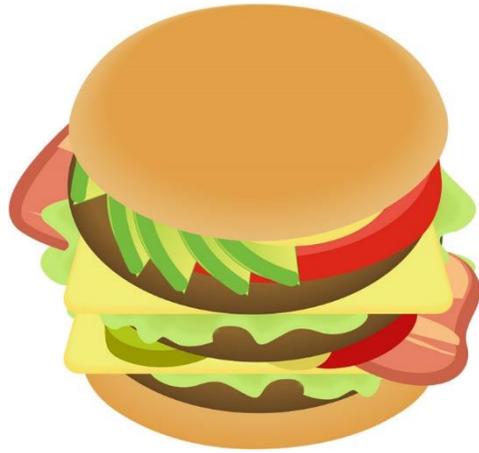
9、10年後の自分はどんな優子さんになっているでしょうか。  
人と会話ができて就職していきたい

## 質問の答えに…

- どうしたら自立できるか。
- 一緒に買い物や食事をしたい。



# 生まれて初めての事



本人の強い気持ちが大きく行動化されました。

ささいなきっかけを提供し、  
ただその希望に寄り添うだけでした。



その後、精神科医の紹介で・・・

42歳 （約3ヵ月の間で…）

## 歯科へ通院

「今のままでいいよ」「治療をすれば綺麗になる、美しくなる」

「世界は信頼するに足る」

診療所；内科・耳鼻科・MRI検査…異常なし

リハビリテーション病院；言語聴覚士によるリハビリ開始



私とも信頼関係ができてきました。  
リラックスした状態で「あ・い・う・え・お」の  
母音や「はい」「いいえ」「ちょっと」など声か  
出る確認ができていますよ。

受診中に「ああ」「おお」「はい」  
と声を聞くことができたよ！！





## < 考 察 > 主治医より

「長期間の引きこもり」「手洗い強迫」と「失声」  
様々な職種の熱心な働きかけによって、問題の解消に迎えた成功例  
「世界への信頼感の回復」  
「自分の力に関する自信の回復」

## 本人より

外に出られるようになり、季節がわかるようになりました。  
時間の大切さもわかるようになりました。  
いろいろな人のやさしさをたくさん知る事ができました。  
たくさんの方々に支えて頂きここまでこれました。  
感謝いたします。ありがとうございます。



名言!! 主治医より

彼女の回復は、  
日頃消耗しやすい援助者へ、回復の可能性と援助  
の希望を逆にもたらしてくれたと言える。



上手くいくことばかりではありません。  
よくも悪くも変化はするのは当たり前です。  
年月はかかります。  
共に寄り添い、援助者は一人ではありません。  
繋いでいきましょう。



# 閉じこもりに往診継続中～！ まだまだ地域では、上手くいかないことばかり

- 30代女性
  - 自室に閉じこもり。他人の眼がない時間帯（夜中から早朝）。
  - 往診、同居する母親の励まし。
  - 直接の面談はできないが、ふすま越しに話しができるまでになる。
- 40代男性
  - 自室に閉じこもり。
  - 往診、親への励まし。
  - ひとつことも話をしないが、面談までは至っている。



# 最近往診へ繋いだ方は…

- 40代男性
- 20数年閉じこもり。
- 父親が相談支援センターパティオに相談。
- 往診へつなげ、往診開始→福祉サービス。
- 訪問看護の利用→採血実施。
- ヘルパーも導入。



# 相談支援センターとして意識していること

①すぐ動こう

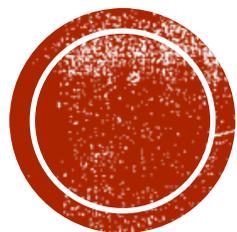
②みんなで知ろう

③つながろう

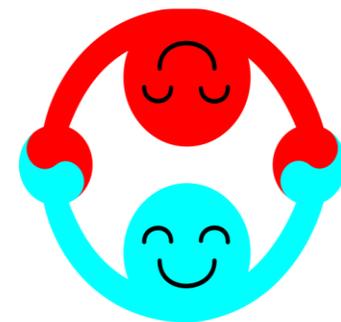
- 機会（チャンス）の提供
- スムーズな連携（顔の見える関係）
- 諦めない



法人理念



～その人らしい生活と人生を  
支え・つなぐ～



ありがとうございました